



週刊院潮

第350号

発行所

丸瀬布ひらやま医院

編集責任 平山典保

TEL (46) 3140

在宅療養支援診療所「丸瀬布ひらやま医院」8年目へ

2018年(平成30年)4月、みなさんに支えられて開院した「丸瀬布ひらやま医院」は、8年目を迎えることができました。この7年間、地域の人口減少と

高齢化は進み、丸瀬布地域人口約1000人という状況ですが、おかげさまで丸瀬布、白滝地域はもとより遠軽町全域、湧別町、佐呂間町さらには滝上町や紋別



訪問診療に参加の医学生(3月27日)

市から通院される方などこれまで約4500名の方が当院を利用してくださいました。日々の診療では高血圧症、糖尿病、脂質異常症などいわゆる「生活習慣病」等のプライマリケアに加えて小さなケガや足腰の痛みなど様々な体の異常、心の悩みなどにも初期対応し「困つたらいつでも相談」できる診療所として医療活動を行ってきました。また早期がんの発見などの諸検査、健診活動、人間ドック、ワクチン接種などの予防活動も重視してきました。同時に遠軽町唯一の在宅療養支援診療所として通院困難な方々や末期がん患者さんの在宅診療、在宅看取りなどにも取り組んでいます。医院は通所介護りハビリ施設としても活動してきました。これからも「誰もが住みなれた場所で安心して暮らせる街」をめざし、職員一同がんばる決意です。

のいちゃん物語 2

ロザンナ・B・B・ケリー

その279

また冬になったらおねいさん来るかな?

その前にあれが来るで!



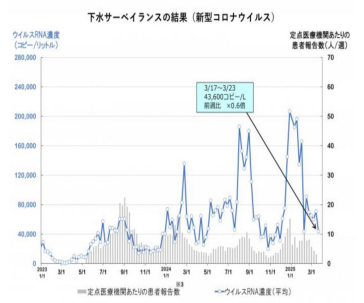
来たで~!



この度、白滝の「江面ファームボランティア」で来道中の医学部5年生の方が江面陽子さんの紹介で地域医療の訪問診療(写真上)を体験されました。将来は「北海道の僻地医療に携わりたい」とのことです。初めての農家体験とのコラボですが様々な形で来てくださるといいですね。

江面ファームボランティアが在宅医療体験

ひき続き新型コロナウイルス・インフルエンザ感染対策を新型コロナ感染症は全国的には緩やかな減少傾向に転じています。北海道での流行も全国レベルで依然として終息したとは言えませんが、当院では毎週、地域で散発的に感染者が出ており、ひき続き感染対策の徹底をお願いいたします。インフルエンザA感染者は「発熱外来」で3週間出ていませんが、ひき続き注意が必要です。発熱や風邪症状だけでなくいつもと違う症状で受診される場合は感染対策上、あらかじめ電話にて「受診予約」をお願いします。



院長のひとり言(その306)

早いもので「丸瀬布ひらやま医院」を開業して7年、およそ70歳での起業でしたからもうすぐ77歳となります。小さかった孫たちも成長し竜真くんは13歳、今回も理奈ちゃんがお祝いにケーキを作ってくれました。丸瀬布ひらやま医院の経営は、立地条件や診療範囲内の人口からいえばマーケティングリサーチ的にはほとんど成り立つものではありませんでした。それでも働く仲間たちの頑張りや地域のみなさんや繋がりのある方々に支えられて開業2年目からは経営が細々ながら安定しています。今後、遠軽町



今週の詩「未来」

谷川俊太郎

地域の状況変化や医療体制の変化で私たちの展開は未知数ですが元気な限り頑張りたいと思っています。

それは未来のようだった
さまっている長さをこえて
どこまでもどこまでも
青空にとけこむようだった

青空の底には
無限の歴史が昇華している
僕もまたそれに加わろうと...
青空の底には
とこしえの勝利がある
僕もまたそれをめざして...

青空にむかって僕はまっすぐ竹竿をたてた
それは未来のようだった

長生きの秘訣はなに?

(その14)

今回は遠軽町丸瀬布の飯田幸子さん(写真上)昭和9年4月生まれでもうすぐ91歳です。今も丸瀬布唯一の旅館「越後屋」を経営され、ファンが多くて泊り客が絶えません。一時は体調を心配されて周囲から廃業を勧められました。最近「あきらめて誰も「やめる」と言わなくなったそうです。長生きの秘訣は生活を変えないこと、食べること、仕事も変わらず同じように続けることと話されました。